



おやこ通信

第19号



予防接種には定期接種と任意接種があります。「水ぼうそう」や「おたふく」は任意接種の代表的なものです。最近では2008年12月より日本でも接種が始まった「ヒブワクチン」、2010年2月から接種が始まった「小児用肺炎球菌ワクチン」が話題になっています。これらは、細菌性髄膜炎の主な2つの原因菌（ヒブ感染症・肺炎球菌）に対するワクチンです。



<細菌性髄膜炎ってなあに？>



<どんな病気？>

病気の始まりは「かぜ」などと区別が付きにくく、血液検査でもあまり変化が出ません。このため診断が遅くなりがちです。その後にはけいれんや意識障害が出てきます。そのうえ、抗菌薬が効かない耐性菌も多く、治療は困難です。亡くなる子どもも5~10%いて、脳の後遺症（発達・知能・運動障害など）が30%くらいに残ります。

これらを惹き起こす原因は主にヒブ感染症（ヘモフィルス・インフルエンザ菌 b 型感染症：インフルエンザウイルスとは異なります）と肺炎球菌による感染症です。この菌がのどから入って、脳を包む髄膜（すいまく）などに炎症を起こします。日本では毎年約800人が、ヒブおよび肺炎球菌による細菌性髄膜炎に感染しています。

<予防接種について>

予防にはワクチン接種が有効です。いずれのワクチンも、生後2ヶ月以上であれば接種は可能です。定期接種との兼ね合いもあるため、病院で詳しい接種スケジュールを相談するといいですね。日本の場合、学童期になると細菌性髄膜炎にかかることは稀ですので、対象年齢以上の接種は不要とされています。

ヒブワクチン

接種開始の年齢	接種回数	接種スケジュール	費用：市のホームページでご確認ください。
生後2か月~6か月	4回	1回目から3~8週間隔で2回目、2回目から3~8週間隔で3回目 3回目の1年後に4回目	
生後7か月~1歳未満	3回	1回目から3~8週間隔で2回目、2回目の1年後に3回目	
満1歳~4歳	1回	1回のみ	

小児用肺炎球菌ワクチン

接種開始の年齢	接種回数	接種スケジュール	費用：市のホームページでご確認ください。
生後2か月~6か月	4回	1回目から4週以上の間隔で2回目 2回目から4週以上の間隔で3回目 生後12-15か月に4回目	
生後7か月~1歳未満	3回	1回目から4週以上の間隔で2回目 12-15か月に3回目	
1歳	2回	1回目から60日以上の間隔で2回目	
2~9歳	1回	1回のみ	

費用などの詳細については新城市のホームページでご確認ください。